

# 県庁周辺エリア未来ビジョン 取りまとめに向けた論点整理

令和6年5月9日 富山県

## 趣旨

---

- 県庁周辺県有地については、県有地に限らず、富山駅からまちなかの商店街地区までの広いエリアを念頭に置いて、まちの活性化にも資するよう効果的に活用する必要がある。
- そのため県では、R5年度に、基礎調査やヒアリングに加えて、県・富山市の若手職員、富山大学の学生によるワークショップを通じて、県庁周辺エリアの現状と課題、ありたい姿を整理するとともに、新たに設置した庁内プロジェクトチームにより、県有地の活用の方向性について検討を開始したところ。
- 本資料は、それらの成果を踏まえて、県庁周辺エリアの未来ビジョンを取りまとめるための論点を整理したものである。

# 構成

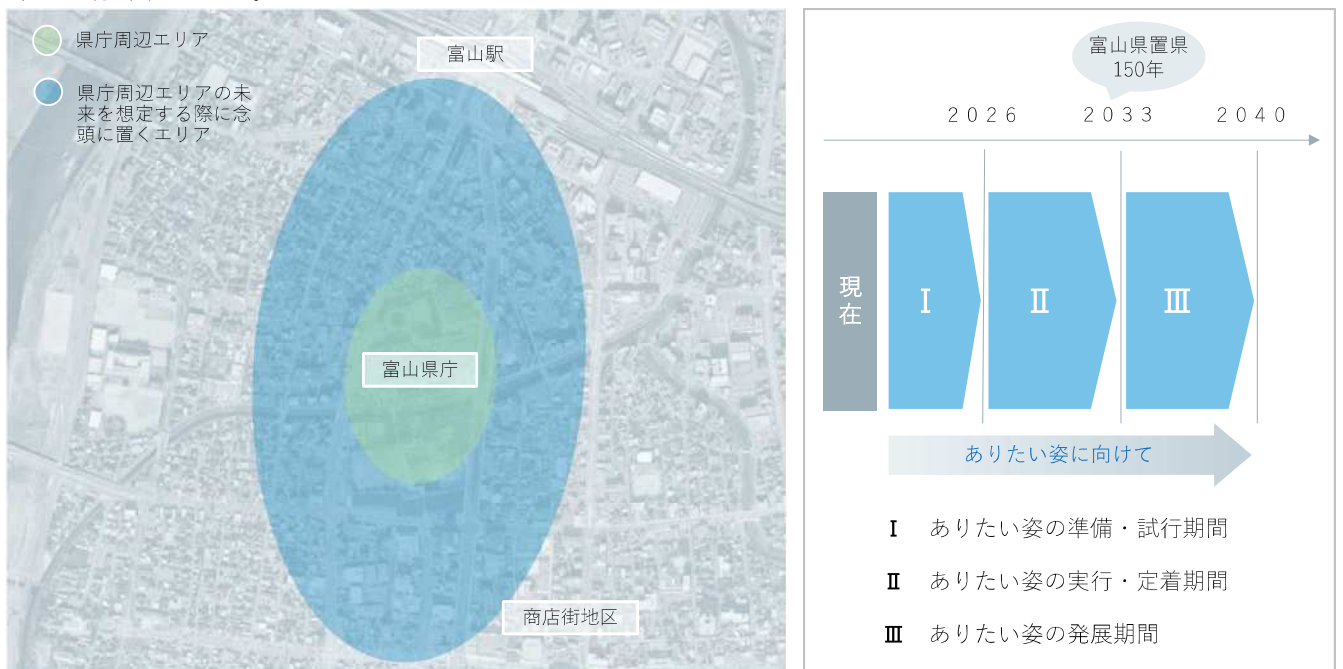
- 対象エリア・期間
- R5年度の取り組み
- 県庁周辺エリアの現状と課題
- 県庁周辺エリアのありたい姿
- ありたい姿の実現に向けた検討事項
- （参考）R6年度の県の取り組み

2

# 対象エリア・期間

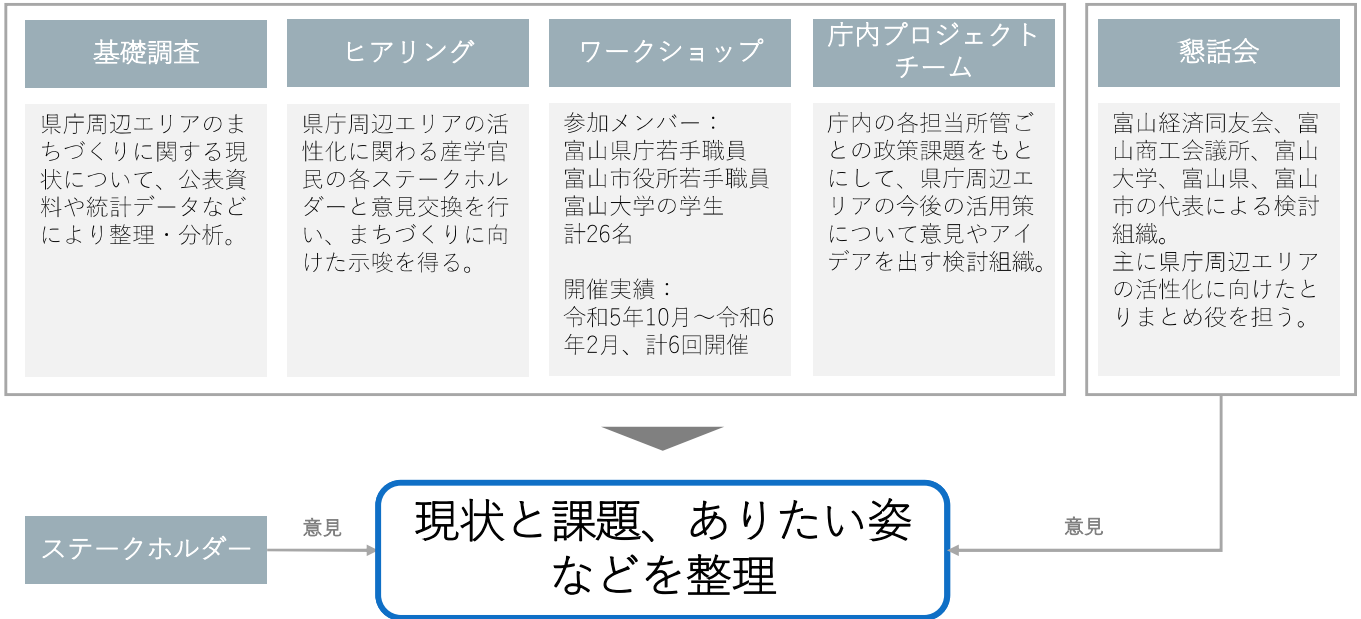
富山県庁・県庁前公園・旧NHK富山放送会館跡地に加えて、松川べり、富山城址公園などの周辺空間を含めた以下に示す一帯を「県庁周辺エリア」として検討対象エリアとする。

未来ビジョンは、2026（令和8）年、富山県置県150年となる2033（令和15）年、そして2040（令和22）年を目標年次とする。



3

# R5年度の取り組み



4

## (補足) 基礎調査

対象エリアは富山駅～商店街地区の中間に位置していることから、その特徴を把握するため、富山駅前、対象エリア、総曲輪のエリアごとに人口動態や経済環境の推移を整理したうえで、①賑わい、②経済、③防災の3つの視点で比較分析した。

	富山駅前	対象 エリア	総曲輪
賑わい	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多くの再開発事業が進んでいる</li> <li>■ 休日の流動人口は、終日多い状況である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 歴史的資源が残っている</li> <li>■ 休日の流動人口は、17時以降にピークとなる</li> <li>■ 冬季は、富山駅から総曲輪への滞留が少ない傾向にある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多くの再開発事業が進んでいる</li> <li>■ 人口は増加傾向にある</li> <li>■ 休日の流動人口は、駅前に次いで多く、日中がピークとなっている</li> <li>■ 周辺に都市公園がない</li> </ul>
経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地価価格は上昇傾向にある</li> <li>■ 大手資本の企業が集積していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公共施設が集積しているため、経済活動がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地価価格は横ばい又は下降傾向にある</li> <li>■ 地元金融機関が集積している</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 駅舎と駅前広場については、建物危険度では周辺に比べて、比較的危険度の割合は低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 建物危険度では周辺に比べて、比較的危険度の割合は低い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 避難施設が周辺に多く点在している（5施設）</li> <li>■ 洪水ハザードマップでは浸水エリアが少ない</li> </ul>

5

## (補足) ヒアリング

まちの活性化に係る主だった関係機関や経済団体、有識者等にヒアリングを実施し、異なる立場からのご意見を得ることで、多面的に対象エリアの課題やポテンシャルなどを把握した。

分類	対象エリアへの主なご意見・ご指摘
立地・環境について	<ul style="list-style-type: none"><li>松川の水辺資源は非常にポテンシャルがある。</li><li>県庁と市役所がコンパクトに立地していることが素晴らしい。</li><li>駅周辺と商店街の人の流れを遮断している。まちなかを歩けるようにつながる必要がある。</li><li>歴史を活かさなければ、都市に深みが出ない。</li><li>シンボルとなるような広場があるべき。</li><li>オープンスペースや公園、緑地が必要である。</li></ul>
都市機能について	<ul style="list-style-type: none"><li>周辺街区のポテンシャルを底上げする機能を創出するべき。</li><li>施設がまちに開かれておらず、通りに面していない印象である。</li><li>駐車場が目立つのは残念である。</li><li>大学がまちなかにないのは寂しい。</li><li>行政機能をまちなかに分散させるべきである。</li></ul>
価値・マネジメントについて	<ul style="list-style-type: none"><li>富山にとって重要な場所であり、富山と言えばここ、と言われることが望まれる。</li><li>多様な人を受け入れ、共感を呼ぶ取り組みが必要である。</li><li>エリア単位のビジョンが求められ、一緒に考えさせてもらいたい。</li><li>産学官民の連携が必要である。</li><li>県と市の連携が必要である。</li></ul>

6

## (補足) ワークショップ

富山県若手職員、富山市若手職員、富山大学の学生ら計26名が参加し、対象エリアの将来像と、その実現のためにすべきことなどを意見交換する場として、全5回のワークショップ、発表会を開催した。

No.	開催日	テーマ	内容
1	2023年 10月24日 (火)	県庁周辺エリアの歴史資源、ポテンシャルの洗い出し	<ul style="list-style-type: none"><li>講義「県庁周辺エリアの歴史・変遷」</li><li>ディスカッション 県庁周辺エリアの良い点・悪い点及びポテンシャル</li></ul>
2	2023年 11月10日 (金)	県庁周辺エリアのまちづくりの未来に向けた価値を定義	<ul style="list-style-type: none"><li>講義「県庁周辺エリアの現状分析」</li><li>ディスカッション ①富山駅周辺エリア・商店街エリアの特徴 ②富山の中心に立地する県庁周辺エリアのまちづくり上の位置付け・役割</li></ul>
3	2023年 11月24日 (金)	県庁周辺エリアにおける未来に向けた価値の具体化、ハード・ソフトの取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>講義「地方都市まちなかにおけるまちづくりの実践」</li><li>ディスカッション 県庁周辺エリアにおける理想のシーン・絵姿・活動・人々の過ごし方</li></ul>
4	2023年 12月08日 (金)	県庁周辺エリアのエリアマネジメント、まちづくりの一員としての若者・若手職員	<ul style="list-style-type: none"><li>講義「地方都市まちなかにおけるエリアマネジメントのあり方」</li><li>ディスカッション ①県庁周辺エリアの活性化・価値共創に関わってほしいプレイヤー ②明日から、主体的にできること・やってみたいこと</li></ul>
5	2023年 12月22日 (金)	報告会に向けたディスカッション・骨子作成	—

7

# 県庁周辺エリアの現状

基礎調査、ヒアリング、ワークショップなどによる意見や情報をもとに現状を整理。

	ポジティブ	ネガティブ
立地面	<ul style="list-style-type: none"><li>• まちの中心に位置している</li><li>• 富山駅と商店街に近い</li><li>• 従業者が多く存在している</li><li>• 県庁と市役所がある</li><li>• 公有地が多い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 富山駅と商店街を分断している</li><li>• 歩行者が少ない</li></ul>
環境面	<ul style="list-style-type: none"><li>• 松川の水辺環境がある</li><li>• 緑がある</li><li>• 公園や広場がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 暗い</li><li>• 公園が閉鎖的で視認性がない</li><li>• 糞害があり清潔感に欠ける</li></ul>
機能面	<ul style="list-style-type: none"><li>• 歴史資源がある</li><li>• 県庁舎に建築的な価値がある</li><li>• 文化施設が充実している</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 休日の来街目的となるものが少ない</li><li>• 店舗が少ない</li><li>• 駐車場が目立つ</li><li>• まちづくりプレイヤーが乏しい</li></ul>

8

# 県庁周辺エリアの課題

- 富山のまちの中心において歴史資源を持ち、水辺や公園空間を備えたエリアでありながら、その資源や環境を十分に活用できていない。
- 県庁と市役所がまちの中心で隣接している全国でも有数の官庁街であり、多くの行政職員やオフィスワーカーが存在するエリアであるが、彼らや来街者にとって必ずしも魅力的なエリアとなっていない。
- まちなかに広大な公有地を有しているが、活性化に向けたまちづくりの活動やプレイヤーが乏しい状態となっている。



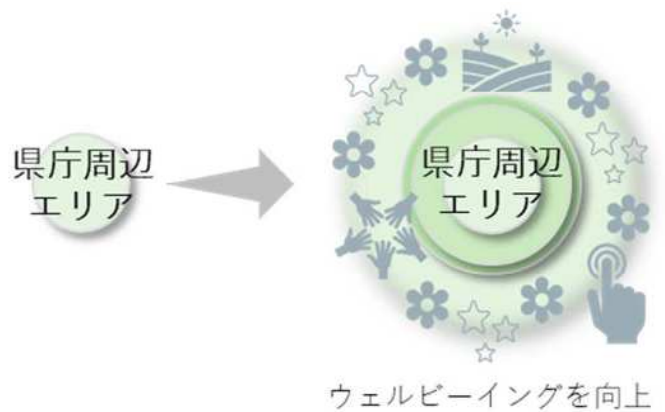
富山県全域の都市競争力を高める核として、  
ポテンシャルを活かして、エリアの価値を高めていく必要

9

## 県庁周辺エリアのありたい姿（1 / 3）

### 1

歴史・水辺・緑を活かしてまちの中心における憩いと愉しみの空間を形成し、来街者・従業者・居住者のウェルビーイングを向上させるエリア



### 幸せあふれるウェルビーイングな場所へ。

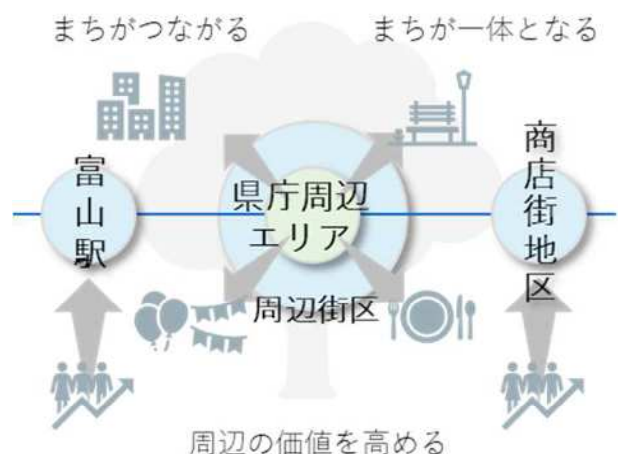
- ✓ このエリアを訪れる全ての人々にとって、それぞれのウェルビーイングを向上させる上質な場所として、県内外の人々を強く惹き付ける。

10

## 県庁周辺エリアのありたい姿（2 / 3）

### 2

まちなかの連続性・回遊性を高めて、まちをシームレスにつなぐとともに、周辺街区に賑わいの好循環をもたらすエリア



### まちがつながり、一体となる。

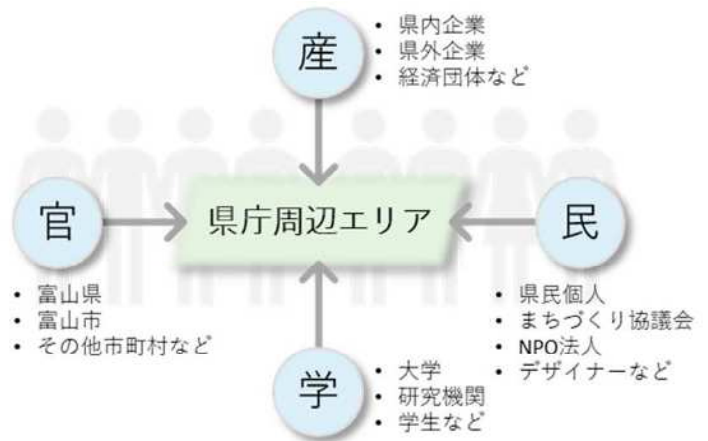
- ✓ 富山のまちなかにダイナミックな一体感が醸成され、賑わいが面的に広がり、まち全体にプラスの効果を与え続ける。

11

## 県庁周辺エリアのありたい姿（3 / 3）

### 3

公有地を舞台に県内外の多様なプレイヤーが集まり、産学官民連携や人々の交流が積極的に行われ、富山のまちの核として求心力と発信力を生むエリア



### 関係人口を増やし、県全域を活性化させる。

- ✓ 県内外の多様なプレイヤーを引き寄せて付加価値を生み出し、県全域に波及させることで、企業誘致や移住受け入れの拡大につなげることを目指す。

12

## ありたい姿の実現に向けた検討事項（1 / 2）

### アクセシビリティ

- このエリア全体を一体的な緑地空間・歩行空間としてはどうか。
- 富山駅周辺及び商店街地区から歩行者を誘導し、空間的にも心理的にも、まちをつないでどうか。
- 県民も観光客も気軽に歩道空間から立ち寄ることができる機能の導入や視認性の高い空間づくりを行ってどうか。

### マネジメント

- まちづくりに関心のある多様な主体（産学民）や富山市との連携により、持続可能なエリアマネジメントのあり方を検討してどうか。
- 都市の風格を向上させるデザインコントロール機能や県民への情報発信機能を強化してどうか。

※現時点の例示。

13



## ありたい姿の実現に向けた検討事項（2 / 2）

### アセット活用

- 土地・建物の有するポテンシャルを活かした利活用により、将来的な施設機能の再編の方向性を導き出してはどうか。
- このエリアの歴史的価値に触れることができる象徴的なデザインや機能を創出してはどうか。

### グリーン・脱炭素

- 県庁前公園などの既存の緑地やオープンスペースの魅力を高め、憩いの広場や魅力的で居心地の良いグリーンインフラとしての空間づくりと脱炭素の両立を追及してはどうか。

### レジリエンス

- 令和6年能登半島地震の経験を踏まえ、各施設の果たすべき役割を検討。
- 日常時も非常時も活用できるフェーズフリーの考え方に基づいた機能連携やバックアップのあり方を具体化してはどうか。

※現時点の例示。

14

## （参考）R6年度の県の取り組み

### 県庁周辺県有地等有効活用基本構想の検討

- 県庁前公園、NHK跡地並びに県庁本庁舎及び敷地について、まちの活性化にも資する未来の有効活用に向け、懇話会と連携して具体的な基本構想を検討。

### 庁内プロジェクトチーム

- R5年度に引き続き、庁内プロジェクトチームにおいて、まちの活性化にも資する効果的な活用を検討。

### 暫定活用・情報発信

- NHK跡地等のイベントなどによる活用促進。
- 情報発信や講演会等による県民とのイメージの共有。

15